

# 研究紀要

## 第28号

加曾利B1式の横帯文系紐線文土器について

大屋 道則  
上野真由美

西関東における高井東式土器の研究

古谷 渉

磨製石斧の材料と加熱処理

大屋 道則

埼玉県内の北陸系弥生土器－池上・小敷田遺跡を中心に－

魚水 環

大木戸遺跡の方形周溝墓

福田 勝

水晶製勾玉の製作とその工程

上野真由美  
大屋 道則

川越田遺跡の手捏ね土器と祭祀（2）

福田 勝  
赤熊 浩一  
岡本 千里  
澤口 美穂  
大屋 道則

古墳時代後・終末期における一墳丘複数埋葬古墳について（1）

青木 弘

古代瓦葺き寺院の衰退－国分寺創建後の寺院像を瓦から考える－

星間 孝志

2014

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 高井東式 羽状沈線（在地）表



2 高井東式 羽状沈線（在地）裏



3 高井東式 波状緑隆帶文（在地）表



4 高井東式 波状緑隆帶文（在地）裏



5 高井東式 波状緑隆帶文（搬入品）表



6 高井東式 波状緑隆帶文（搬入品）裏



7 安行1式 带繩文系（搬入品）表



7 安行1式 带繩文系（搬入品）裏

上段：前原遺跡出土遺物

下段左：前原遺跡勾玉未製品集中一面 右：同二面



上段：反町遺跡出土遺物 中段左：反町遺跡 SJ48 勾玉未製品集中 同右：同 SJ48 遺物出土状況 卷頭図版 3  
下段： 1：剥離痕 2：敲打痕 3：敲打研磨痕 4：同（腹部） 5：同（面取り） 6：穿孔痕



# 目 次

卷頭図版

序

- 加曾利B 1式の横帯文系紐線文土器について ..... 大屋道則 上野真由美 (1)
- 西関東における高井東式土器の研究 ..... 古谷 渉 (29)
- 磨製石斧の材料と加熱処理 ..... 大屋道則 (45)
- 埼玉県内の北陸系弥生土器—池上・小敷田遺跡を中心に— ..... 魚水 環 (49)
- 大木戸遺跡の方形周溝墓 ..... 福田 聖 (61)
- 水晶製勾玉の製作とその工程 ..... 上野真由美 大屋道則 (73)
- 川越田遺跡の手捏ね土器と祭祀 (2)  
..... 福田 聖 赤熊浩一 岡本千里 澤口美穂 大屋道則 (95)
- 古墳時代後・終末期における一墳丘複数埋葬古墳について (1) ..... 青木 弘 (115)
- 古代瓦葺き寺院の衰退—国分寺創建後の寺院像を瓦から考える— ..... 昼間孝志 (131)

# 大木戸遺跡の方形周溝墓

福田 聖

**要旨** さいたま市の大木戸遺跡からは、方台部に盛土が遺存している方形周溝墓群が検出された。1~3号には埋葬施設が遺存しており、埼玉県内では明らかでなかった埋葬施設設置後に盛土を施す「地山埋め込み型」によって埋葬されていることが明らかになった。周溝からも良好な状態で土器が出土している。土器の組成は少量の高杯、鉢を除きすべて壺である。大型の1号は超大型壺が出土しており、階層的な優位性が窺える。一方、土器に対する変形行為は焼成後穿孔のみで、ほとんどの個体に施されているのが特徴である。土器配置では、大きく周溝底から下層の高杯、鉢、上中層の壺に分かれる。前者は2・3号の周溝から出土し、4号を意識した配置が見られる。後者は各周溝墓間のコーナー、各辺の中央の土器配置に共通した様相があり、周溝墓群における配置の規則が明瞭である。群として儀礼の執行方法が統一されていたと考えられる。

## はじめに

大木戸遺跡はさいたま市西区指扇に所在する旧石器時代、縄文時代、古墳時代、近世の遺跡である。古墳時代では前期初頭から中期の遺構、遺物が検出されている。中でも方形周溝墓群は盛土が良好な状態で遺存しており、埋葬施設設置後に盛土が施された工程が明らかになると共に、多量の土器が出土している。県内でも屈指の良好な資料であり、今後研究の基準となる例と考えられる。報告書中でも若干のまとめを行ったが、充分な検討とは言えなかったため、本稿で再検討することにしたい。

## 1. 大木戸遺跡の古墳時代初頭の概要

大木戸遺跡からは、第4地点で住居跡11軒、第13地点から住居跡8軒、方形周溝墓4基、土壙1基が検出されている（第1図）。住居跡は第4地点から第13地点の南半にかけて分布し、その北側に方形周溝墓群が列状に並んでいる。第13地点の土壙は方形周溝墓群に伴うものである。

住居跡群は、現状では2~3軒の、第4地点1・4号、2・3・5号、6・8・9号、10号、11号、第13地点18・20・21号、16・17・19号、

22・23号の8か所のまとまりに分けられる。各々が大小の組み合わせになっており、一つの世帯的な単位と考えられる。

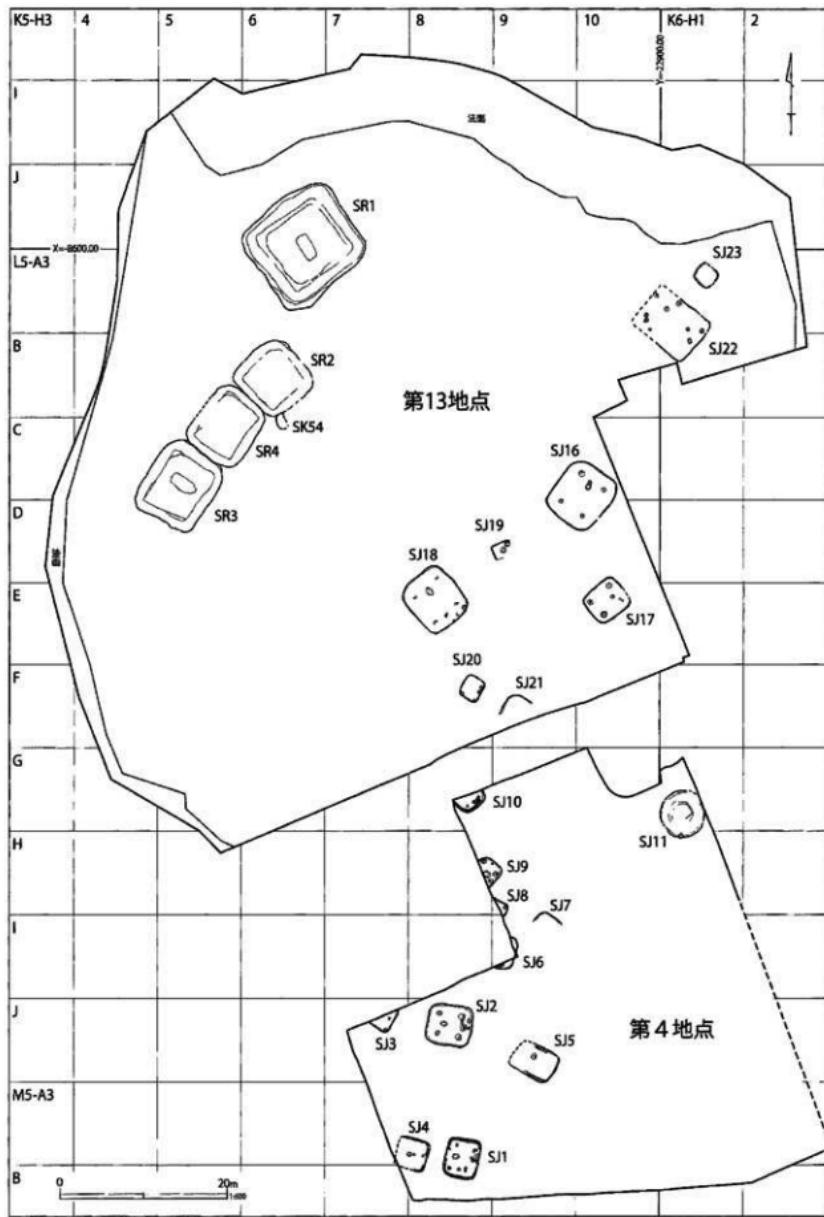
この住居跡群のまとまりと周溝墓群の関係は不明だが、造営集団の規模がそれほど大きなものではないことが窺える。

## 2. 方形周溝墓群の概要

方形周溝墓は大型の1号と、連接する2~4号の一列によって構成されている（第2図）。築造順序は4号→3号→2号の順で、1号はその後に造られている。

規模、周溝の法量等については表1のとおりである。

平面形は1・2号が正方形、3・4号が長方形である。いずれも陸橋部は認められず、周溝は全周する。底面は平坦で、段がないのが特徴である。溝中土壙等の施設はなく、溝中埋葬の痕跡は認められない。唯一1号の南コーナーにはテラス状の段が認められ、入口部である可能性が高い。深さも大きな差異がないが、1・2号は北東側、3・4号は南東側がやや浅くなっている。この方向と平面形は、築造順序と対応する可能性がある。

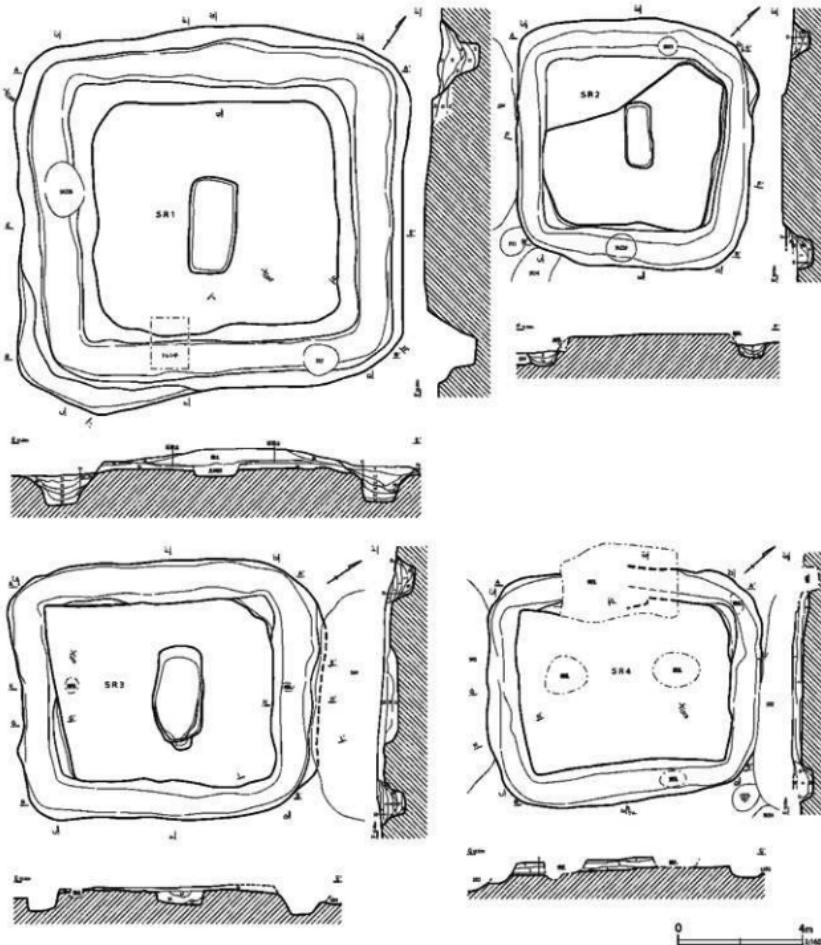


第1図 大木戸遺跡の古墳時代遺構分布図

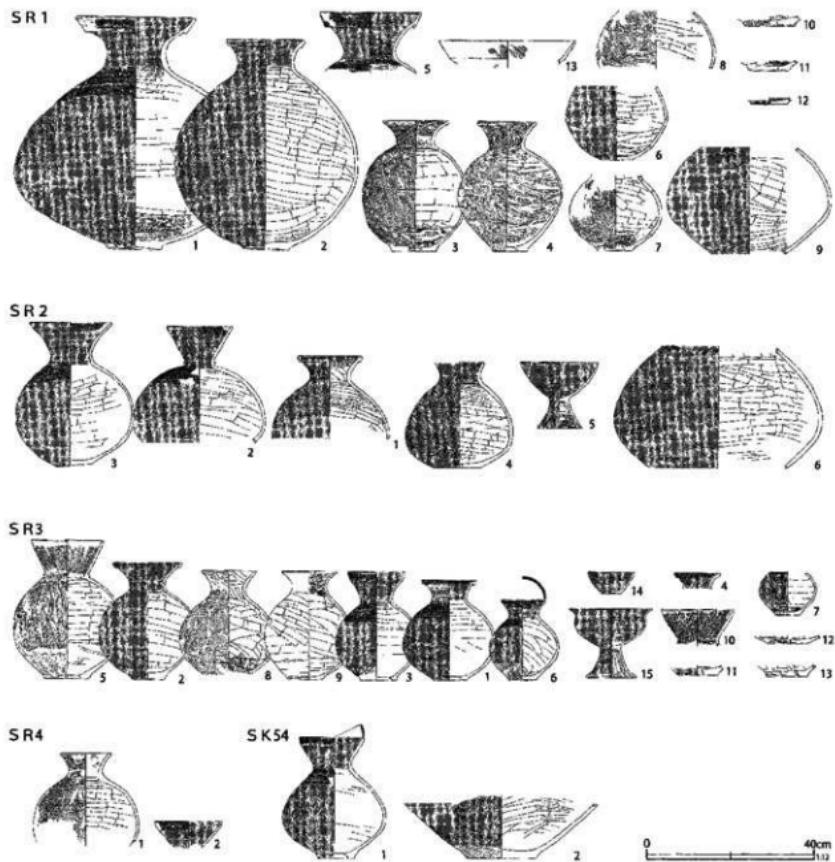
表1 大木戸遺跡の方形周溝墓

単位:m

No	遺跡名	規模				溝幅周		深さ		中心理葬施設		埋葬方法	副葬品	副葬品出土地所	周溝出土土器
		長軸	短軸	最狭	最広	最浅	最深	長軸	短軸	深度					
1	大木戸1	9.2	8.6	1.3	2.2	0.8	1.2	3.08	1.52	0.44	木棺か				壺12、高坏1
2	大木戸2	6.3	6.0	0.8	1.3	0.3	0.6	2.08	0.80	0.40	木棺か	ガラス玉5	盛土中		壺5、高坏1
3	大木戸3	7.4	6.5	0.6	1.7	0.2	0.6	3.30	1.60	0.40	直縫	鉄削1 ガラス玉4	埋葬施設床直	壺13、高坏1、鉢1	
4	大木戸4	6.7	5.3	0.8	1.3	0.2	0.4	—	—	—		ガラス玉2	盛土中		壺1、高坏1



第2図 大木戸遺跡の方形周溝墓



第3図 大木戸遺跡の方形周溝墓出土遺物

1・3号は盛土と埋葬施設が遺存しており、埋葬施設の設置後に盛土が施されている（第2図）。山岸良二氏の言う「地山埋め込み型」に該当する（山岸1991）。

中心埋葬施設は1～3号で検出された。いずれも不整な長方形で、木棺等の痕跡は認められていない。3号の埋葬施設は底面が舟底状で、埋戻されている。木棺等の施設を用いずに埋葬されたと

考えられる。

副葬品は2号からガラス小玉が5点、3号から鉄釧1点、ガラス小玉4点が出土している。

周溝からは、壺、高杯、鉢が出土している。壺は、焼成後の底部穿孔が施されるものが多い（第3図）。

この内、方台部の盛土と埋葬施設については報告書中で検討したため、本稿では土器を中心に、

穿孔、破碎の変形行為と土器配置についてみるとしたい。

### 3. 出土土器の変形行為と土器配置

**組成** 出土土器は1号13、2号5、3号15の高坏、3号14の鉢を除き、すべて壺である。各々の周溝墓出土土器の組み合わせを見ると、規模の大きな1号は、柿沼幹夫の「超大型壺」(柿沼2006)に該当する器高50cmを超える1・2と、器高30cm程度の中型壺の組み合わせになっている。ほぼ同じ規模の周溝墓が連接する2~4号は、中型壺とそれよりやや小型の壺の組み合わせである。土器の出土量にも多寡があり、3号が特に多く、4号は少ない。

方形周溝墓群の出土土器の法量や個体数については、坂戸市入西遺跡群の資料をもとにした柿沼幹夫の研究がある。規模の大きなものには大型壺が伴い、出土量も多く、規模に比例して出土土器の法量や個体数が異なるとされ、階層差を反映すると推定されている(柿沼1996)。大型の1号とやや小型の2~4号の出土土器の組み合わせの差異は、入西遺跡群と同様であり、両者に階層差を感じさせる。

一方、重複関係で最も古いと考えられる4号は、出土量が少なく底部穿孔土器も伴っていない。起点となる周溝墓のこうした様相は、群形成の端緒が世代における最初の死者の発生によるもので、土器の多寡や底部穿孔土器が示す優位性ではないことを示している。

1号3・4は、法量、色調、器形とも共通しており、所謂「対の土器」(合田1995)の可能性がある。

**変形行為** 底部穿孔土器は全て焼成後穿孔で、4号を除く各周溝墓から出土している。底部が確認できたものの内、1号では6個中5個、2号では2個中1個、3号では8個中7個に内側からの底部穿孔が施されている。

弥生時代までの限定的な底部穿孔に対して、比企地方では古墳時代前期に爆発的に施されるようになるとかつて指摘したが(福田1991)、本遺跡における様相も古墳時代に入っての従来の規範の変化を示している。

第54号土壙は超大型壺と底部穿孔壺が出土しており、周溝墓群に関連する土壙と考えられる。

**土器配置(第4図)** 方形周溝墓出土土器群の正面鏡に基づく列構成を意識した土器配置は、本遺跡ではどの周溝墓でもコーナーを中心とした出土状況を示しており明瞭でない。

土器そのものや、穿孔行為においてもさいたま市井沼方遺跡(柳田・小倉1994)の例で指摘したような、複数の周溝墓間で共通した様相は見られず(福田2007)、その点からも列を単位とした土器配置が行われているとは言い難い。

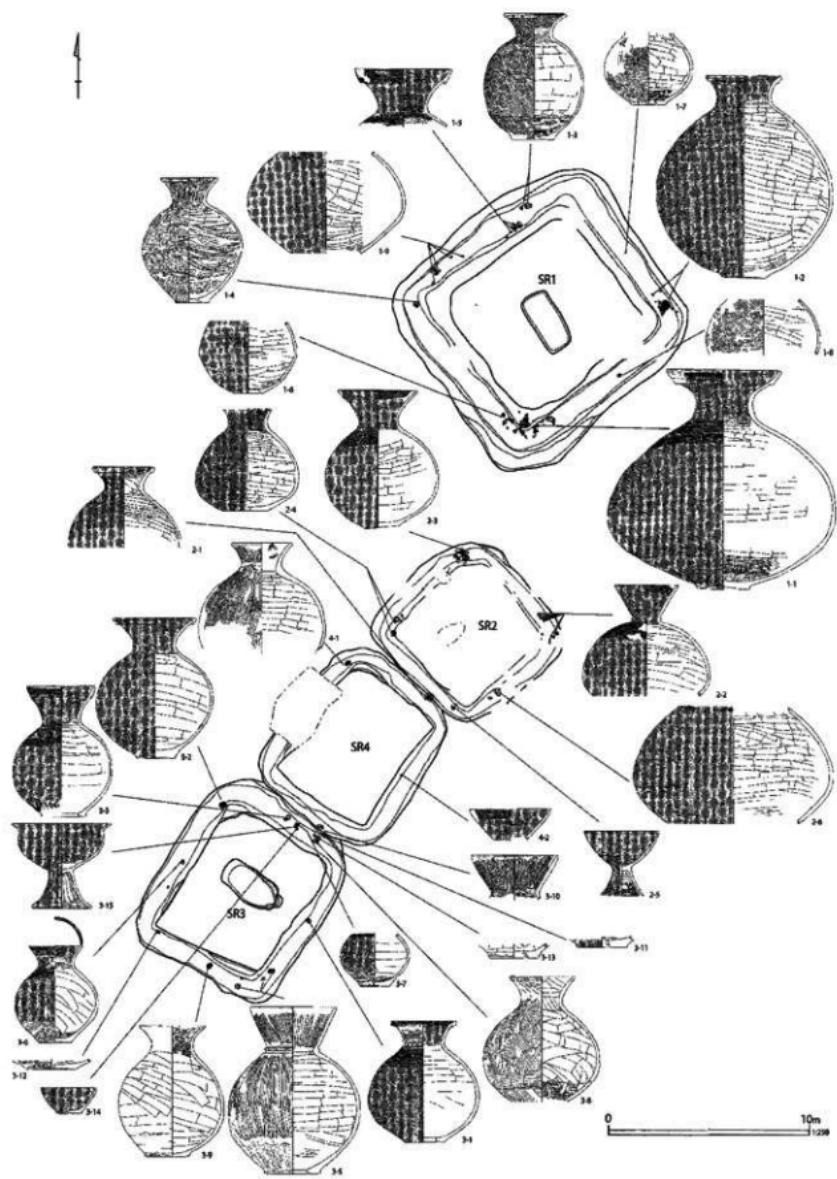
一方、正面鏡のみを問題にした2~4号の築造順序は、3号の北側の土器群が4号によって塞がれるため3号→4号の順序になる。同様に2号南側の土器群の存在からは2号→4号の順序になる。しかし、前述のように2・3号の4号側の周溝は、4号の周溝を意識した平面形態をとっており、やはり4号を最初に、2・3号が両側に造られているとする現場での判断は妥当であろう。

ここで再度土器群の出土位置に目を向けると、2・3号とも高坏(2号5・3号15)が4号側の溝底もしくは下層から出土している(第5図)。両周溝墓の築造直後に4号の方向に向けて高坏を用いた儀礼的行為があった可能性が考えられる。

同様な高坏の使用例は、上尾市葉ヶ崎耕地前遺跡1号周溝墓(赤石1978)や坂戸市中耕遺跡13号周溝墓(杉崎1993)などで認められる。先行する周溝墓側の周溝から高坏が出土しており、既に造られた墓に対しての意図的な配置と考えられる。

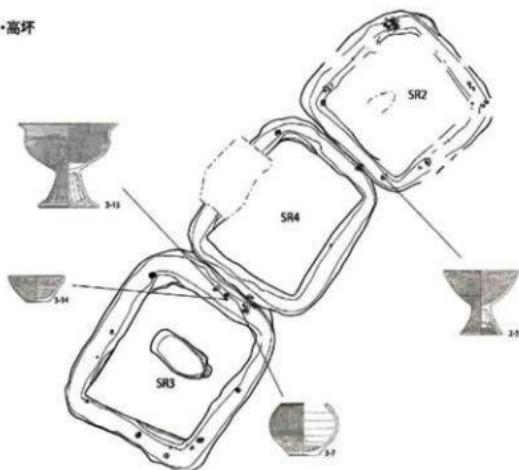
この点からも4号が先行する築造順序は妥当と考えられる。

また、3号は高坏とともに小型の壺(7)と鉢

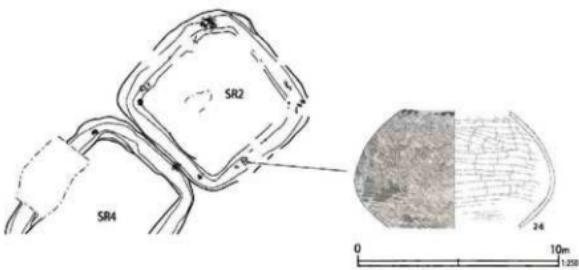
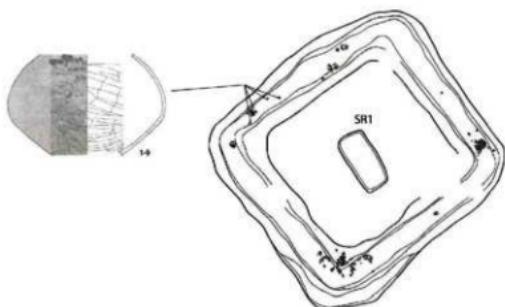


第4図 大木戸跡の方形周溝基土器出土位置

下層・高环

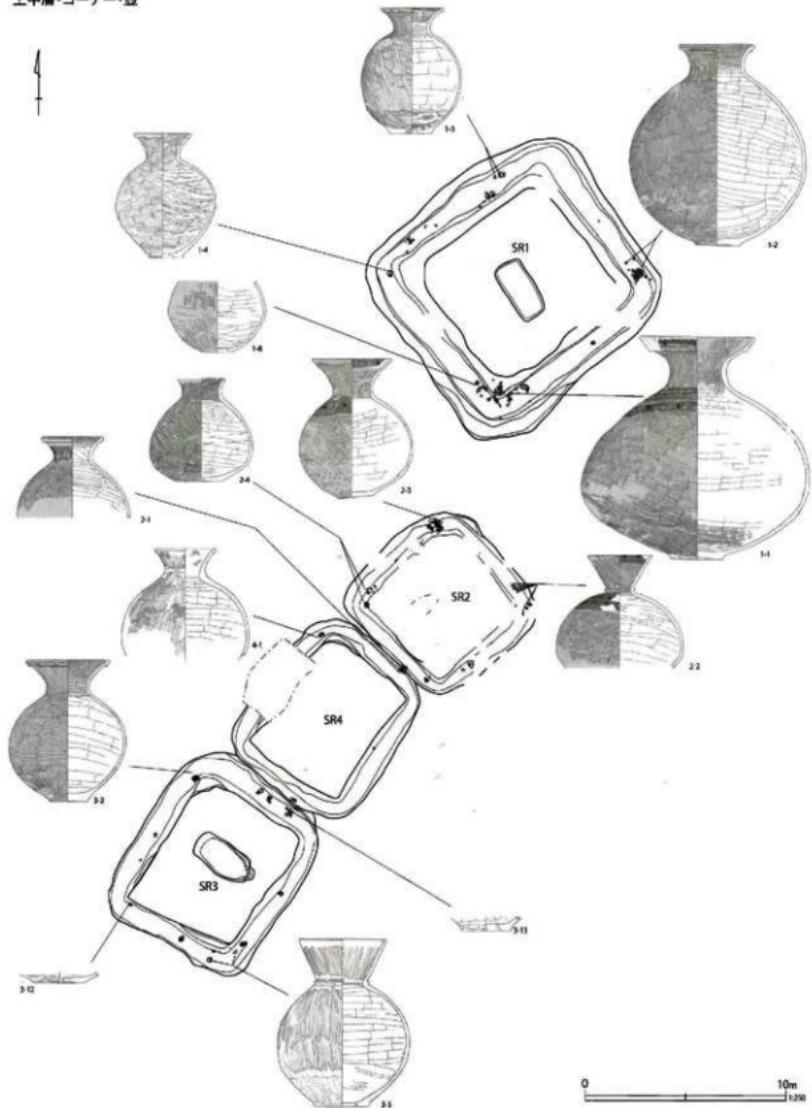


下層・壺腹部破片



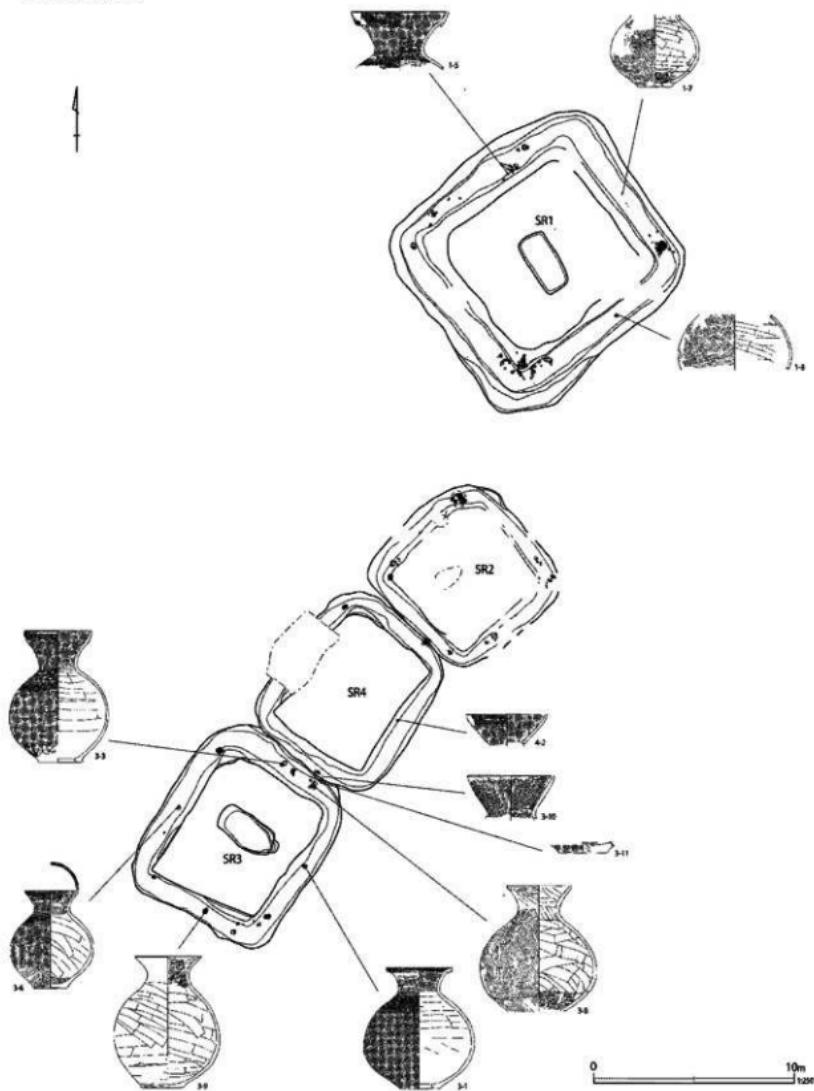
第5図 大木戸遺跡の方形周溝墓下層の土器出土位置

上中層・コーナー・壺



第6図 大木戸遺跡の方形周溝墓上中層の土器出土位置（コーナー）

上中層・辺中央・壹



第7図 大木戸遺跡の方形周溝墓上中層の土器出土位置（辺中央）

(14) が共伴しており、これらも用いた儀礼的行為が行われたと考えられる。こうした溝底での小型器種を用いた例は、立花実をはじめとする諸氏により指摘されている（立花1996）。

下層から出土している1号9・2号6の壺はいずれも口縁部・底部を欠失した胴部の20~30%程度の破片である（第5図）。出土するこの段階にも一段階ある可能性とともに、1・2号に共通する要素の一つとも考えられる。

次の段階としては、それ以外の上～中層出土の壺の配置が考えられる。

これらの土器群が方台部の縁に立て並べられ転落したものか、それとも上・中層堆積時に周溝中に据え置かれたのかは判然としない（註1）。

第6・7図は上中層出土の壺を周溝のコーナー近辺と中央近辺の位置別に示したものである。両図からは一定の規則的な配置を窺うことができる。

まずコーナー近辺における様相である。1号では1・2の超大型・大型壺が東・南コーナーから破碎された状態で、3・4の無文の中型壺が北・西コーナーに配置されている。3・4は前述のように対の土器の可能性がある。

2号では肩部と口縁部内面に縄文施文の中型壺2・3が東・北コーナーから、破碎の有無は不明だが割れた状態で、1・4の無文の中型壺が南・西コーナー近辺から出土している。

3号では無文の中型壺2が北コーナーから、5のやや大型の壺が南コーナー近辺から分割された状態で出土している。

この3号の中型壺とほぼ同様の位置から、4号では無文の中型壺（1）が出土している。土器自体の相違はあるが、意識的な配置と考えられる。

このように、コーナー近辺出土のものは隣接コーナーのものと2個1対の組み合わせになるように置かれている可能性が高い。特に2~4号では北コーナーが重視されていると推定される。

また大型壺もコーナーに重点的に置かれ、破碎

もしくは割れた状態で出土している様相が共通している。特に超大型壺は坂戸市広面遺跡S29（村田1990）、富士見市北通遺跡8号周溝墓（高橋1987）などでも粉々に割れた状態で出土している。超大型壺を集成、検討した柿沼幹夫はこうした出土状況を、方台部に据え置かれた供獻土器が落下したものと評価している（柿沼2006）。こうした周溝墓以外からも、戸田市鎌治谷・新田口遺跡SX12（西口1986）などの周溝持建物跡からもやはり粉々に破碎された状態で出土しており、葬送儀礼に限らず、逆に超大型壺に關係する儀礼的行為が行われている可能性を考慮に入れる必要性を感じられる。

次に周溝の中央近辺の様相である。1号では5・7・8の中型壺が見られる。5は縄文施文の複合口縁で赤彩されている。

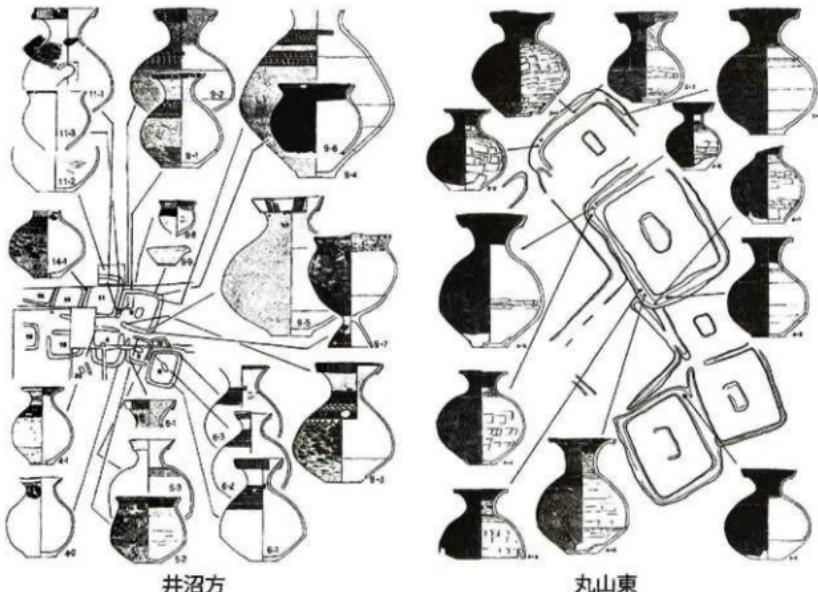
3号では中型壺1・3・8・9、小型壺6が出土している。この内8・9は無文、それ以外は縄文施文の複合口縁で赤彩されている。

4号では縄文施文、赤彩の高坏もしくは鉢が出土している。

周溝中央の土器群には、このように1号の破片、3号の無文壺を除き縄文施文、赤彩の壺、鉢が共通して使用されているのが分かる。

以上の土器配置は、前述のように列を単位とするような配置ではなく、むしろ各周溝墓間で共通した規則、共通の配置のデザインがあることを窺わせる。隣り合ったコーナーを中心とした2~3個の土器を単位とする配置、各辺の中央における縄文施文の赤彩壺の配置がそれである。また、2・3号における下層の高坏使用、1・2号における大型壺の破片の使用も共通しており、周溝墓間の強いつながりを感じさせる。

これまでに検討してきた本遺跡とほぼ同時期、あるいはやや先行する井沼方、練馬区丸山東（惟村・新堀1995）、本遺跡例より新しい蓮田市久台（新屋・福田2007）の各遺跡でも、本遺跡ほどで



られる。本遺跡を基準の一つとして今後検討を進めなければならないだろう。

本遺跡と同様の盛土遺存の良好な例との対比を行って、本来の方形周溝墓像に迫ることにしたい。  
参考を期し、御観する。

**謝辞** 本稿を作成するにあたり、盛土と埋葬施設の関係については山岸良二、鈴木敏弘両氏のご教示を頂いた。末筆ではあるが、衷心から感謝申し

上げたい。

また、調査担当者であった故新屋雅明氏と報告者の大屋道則とで、現場、整理で幾度となく繰り返した議論が本稿の基幹になったことを添えておきたい。

**註1** 筆者は、これまで述べてきたように、方形周溝墓の周溝出土器の大部分は、周溝埋没中に据え置かれたと考えている。

#### 引用参考文献

- 赤石光資 1978 「茶師耕地前遺跡」上尾市文化財調査報告第4集 上尾市教育委員会
- 新屋雅明・福田 勝 2007 「久台遺跡Ⅳ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第239集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 新屋雅明 2010a 「埼玉県大木戸(おおきど)遺跡方形周溝墓群」『考古学ジャーナル』No.607 pp.29~32  
ニューサイエンス社
- 2010b 「さいたま市大木戸遺跡(第13地点)の調査」『第43回遺跡発掘調査報告会発表要旨』pp.8~9  
埼玉考古学会・(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 大屋道則 2013 「大木戸遺跡Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第405集 (公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 桂沼幹夫 1996 「方形周溝墓」出土の土器 北関東①埼玉県「関東の方形周溝墓」pp.247~318 同成社
- 2006 「大きな方形周溝墓出土の超大型壺」『埼玉の考古学Ⅱ』pp.261~284 埼玉考古学会
- 合田芳正 1995 「対」の土器「海老名本郷Ⅲ-IV」pp.1027~1032 富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団
- 椎村忠志・新堀 哲 1995 「丸山東遺跡Ⅲ 第6分柵」東京外かく環状道路遺跡調査会
- 杉崎茂樹 1993 「中耕遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 敦 1987 「針ヶ谷遺跡群」富士見市遺跡調査会調査報告第27集 富士見市遺跡調査会
- 立花 実 1996 「方形周溝墓」出土の土器 南関東①神奈川県「関東の方形周溝墓」pp.179~208 同成社
- 西口正純 1986 「鍛冶谷・新田口遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第68集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 福田 勝 2004 「方形周溝墓と土器Ⅱ」『研究紀要第19号』pp.133~168 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 2005 「方形周溝墓と土器Ⅲ」『研究紀要第20号』pp.57~76 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 2007 「方形周溝墓における土器使用と群構成」「原始・古代日本の祭祀」pp.148~188 同成社
- 2013 「7.古墳時代の方形周溝墓」「大木戸遺跡Ⅱ」pp.461~468 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第405集 (公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 村田健二 1990 「広面遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 柳田博之・小倉 均 1994 「井沼方遺跡発掘調査報告書(第12次)」浦和市遺跡調査会報告書第185集 浦和市遺跡調査会
- 山岸良二 1991 「方形周溝墓」「原始・古代日本の墓制」pp.120~146 同成社

## 研究紀要 第28号

2014

平成26年3月17日 印刷

平成26年3月20日 発行

発行 公益財團法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

<http://www.saimaibun.or.jp>

電話 0493-39-3955

印刷 巧和工芸印刷株式会社